

## 普通科2学年生徒の皆様へ

### 臨時休業期間中の課題につきまして 【5月追加課題】

5月に入りました。4月に出した、「国語」、「数学」、「英語」の課題はできましたか。5月に入り、臨時休業期間が延長されることに伴い、追加の課題が普通科2学年の生徒へは「社会科目」と「理科科目」が出ています。

臨時休業期間中にしっかり取り組み、授業再開後のスムーズな学校生活が送れるよう、取り組んでください。

#### 【社会科目】

##### ○ 内 容

①プリント No. 1～No. 4

(No. 1 は 1 枚、No. 2～4 は 2 枚ずつの計 7 枚)

②PDF から B5 に縮小してプリントアウト(プリントは計 7 枚)し、各プリントに明記されている教科書または資料集のページを読み、各プリントの空欄に記入すること。ただし、プリントアウトできない場合は、新しいノートを準備し、空欄に入る語句のみ、その部分の番号を書いて記入すること。

○ 提出日：第 1 回目の登校日にお知らせします。

○ 提出先：担任

#### 【理科科目】

##### ○ 内 容

第 1 学習社 『改訂 ネオパルノート 物理基礎』の  
P 1、P 2、P 3 の問題について、問題集用ノートを 1 冊準備し、  
問題を書き、解答すること。

○ 提出日：第 1 回目の登校日にお知らせします。

○ 提出先：担任

※ 次のページ以降に【社会科目のプリント】を掲載します。

## 1. 人類の出現と進化【人類の特性…直立二足歩行、道具の制作、火・言語の使用】

### (1) 人類の分類…化石人類（猿人・原人・旧人）と現生人類（新人）

#### ① 猿人（約 700 万年前に出現）

- ・ 1 \_\_\_\_\_ …アフリカで発見
- ・ 単純な打製石器（礫石器という）を使用

#### ② 原人（約 240 万年前に出現）

- ・ ホモ=ハビリス・ 2 \_\_\_\_\_ ・ハイデルベルク人など…旧大陸の広範囲に広がる
- ・ 形の整った打製石器をつくり、火を使用して言葉も話す。狩猟や採集の生活

#### ③ 旧人（約 60 万年前に出現）

- ・ 代表する人類は 3 \_\_\_\_\_ 人…ヨーロッパに分布
- ・ 精神文化が進化し、死者の埋葬など宗教的行為をおこなう。剥片石器の使用

#### ④ 新人（約 20 万年前に出現 現代人と同種）

- ・ ヨーロッパの 4 \_\_\_\_\_ 人や中国の周口店上洞人など…旧大陸・新大陸の全土に広がる
- ・ 剥片石器のほか、 5 \_\_\_\_\_ （槍・銛・釣針など）も使用
- ・ 洞穴美術が生まれる…スペインの 6 \_\_\_\_\_ ・フランスの 7 \_\_\_\_\_ など
- ・ 死後の世界についての観念発生…死者の埋葬に屈葬・副葬品など

### (2) 新環境への適応

#### ① 気候の温暖化（今から約 12000 年前）→ 暖系の小型獣や水鳥・魚介類など繁殖

#### ② 地質年代の完新世へ…地域ごとに生活様式を変える

- ・ ユーラシア北部：石刃の鏃をつけた弓矢の普及、オオカミを家畜化した  
犬 → 小動物の狩猟容易、 5 \_\_\_\_\_ や網の使用で漁労も容易
- ・ ユーラシア南部の草原地帯：弓矢を使用した移動的な狩猟生活
- ・ 西アジア、東地中海の一部：野生動物を主要食糧とする採集・狩猟民 → 農牧と定住生活へ

#### ③ 自然環境の変化に応じて新しい生活へと移行していった時代を 8 \_\_\_\_\_ 時代といい、旧石器時代から新石器時代に移る中間期のことである。

## 2. 文明へのあゆみ

### (1) 農耕・牧畜のはじまり…9 約 \_\_\_\_\_ 年前、西アジアから東地中海地域中心

#### ① 麦の栽培、食用家畜の飼養

#### ② 代表的遺跡…10 \_\_\_\_\_ （ヨルダン川西岸）、ジャルモ（イラク東北部）など

#### ③ 磨製石器のほか、土器や織物なども使用し、日干し煉瓦で小屋を建て集落を形成

#### ④ 乾地農法・略奪農法…頻繁に耕地変更 → 大集落に発展できず

### (2) 初期農村から都市国家へ

#### ① 11 \_\_\_\_\_ 土器の制作（前 5000 年頃）、銅・青銅製品の使用、私有や権利の概念発達

#### ② オリエントの大河のほとりで灌漑農業始まる → 定住 → 神殿中心に都市が発達

#### ③ 前 5000 年頃から東西に伝播 → 前 3000 年頃までに旧大陸沿岸や大河の流域などに農耕・農牧文化圏成立 → 四大文明発生

## \*オリエント世界の風土と民族

- ① オリエント…ラテン語で「太陽の昇るところ」(古代ローマ人が地中海東岸を指した言葉)
- ② 大部分乾燥した亜熱帯風土
  - ・砂漠、草原、岩山の地域が多い → 遊牧生活が営まれる
  - ・「肥沃な三日月地帯」…豊かな農耕地帯 → 人類最古の文明発祥
- ③ メソポタミア…「川の間」の意味 1 \_\_\_\_\_ 川・2 \_\_\_\_\_ 川両下流域  
開放的地形のため、交易が盛んで、多くの民族が侵入
- ④ エジプト…「ナイルの賜物」(ギリシアの歴史家 3 \_\_\_\_\_ の言葉)  
周囲が砂漠の閉鎖的地形のため、異民族の侵入が困難で、長期間独立を保つ
- ⑤ シリア・パレスチナ地方…メソポタミアとエジプトの交通路。セム語族のいくつかの民族が交易に活躍
- ⑥ オリエント社会・文化の特色…4 \_\_\_\_\_ 政治(強力な宗教的支配)、実用的文化の発達

## 1. メソポタミア

(1) シュメール人…民族系統不明

- ① 前 2700 年頃までに多数の都市国家形成…5 \_\_\_\_\_ ・ウルクなど
- ② 6 \_\_\_\_\_ 社会…王(最高の神官・戦士)を中心に、人民や奴隷を支配
- ③ シュメール文化…7 \_\_\_\_\_ 文字を創始。壮大な神殿・宮殿・王墓を建設

(2) 8 \_\_\_\_\_ 人…セム系

- ① 前 24c に広大な領域国家形成 → シュメール人を征服
- ② サルゴン 1 世の時に統一国家を建設

(3) バビロン第 1 王朝(古バビロニア王国)…セム系の 9 \_\_\_\_\_ 人がバビロン中心に建国

- ① 10 \_\_\_\_\_ 王(前 18c 頃)…全メソポタミアを支配

10 \_\_\_\_\_ 法典制定 → 法治主義による中央集権化を図る。この法典は「目には目を、歯には歯を」

の復讐の原則に立つが、身分法的性格を持っている。

- ② 周辺諸民族を開化 → 諸民族の移動 → 先住民を征服し、国家を形成

## 2. 小アジア(インド=ヨーロッパ系諸族の活動)

(1) 11 \_\_\_\_\_ 人…都: ボアズキョイ

- ① 12 \_\_\_\_\_ 武器と戦車、馬の使用 → 小アジアに強力な国家を建設(前 17c 半ば頃)
- ② バビロン第 1 王朝を滅ぼす → エジプトと戦う

(2) カッシート人…南メソポタミアに侵入し、バビロニアを支配(前 16～前 12c)

(3) ミタンニ王国…北メソポタミアからシリアに建国(前 16c～前 14c)

## 3. 文化

- ① 宗教…多神教で現世的傾向(占星術など)
- ② 文字…7 \_\_\_\_\_ 文字、粘土板に記入
- ③ 実用の学問発達…13 \_\_\_\_\_ 法、14 \_\_\_\_\_ 暦、閏月の設置など

## 4. エジプトの統一国家

### (1) 統一国家の成立

- ① ナイル川流域に多くの村落（ノモスという）分立 → 川の治水 → 統一国家の形成
- ② 前 3000 年頃、王（15 \_\_\_\_\_）による統一国家…上・下エジプトと統合

### (2) 王朝の変遷…アケメネス朝に征服される前 525 年までに約 30 の王朝が交替

- ① 初期王朝…前 3000 年頃、伝説的なネメス王により統一
- ② 古王国（第 3～6 王朝）…前 27c～前 22c 中心地…16 \_\_\_\_\_  
・ギザにクフ王などの墓である 17 \_\_\_\_\_ 建設
- ③ 第 1 中間期…小国が分立
- ④ 中王国（第 11～12 王朝）…前 22c～前 18c 中心地…18 \_\_\_\_\_
- ⑤ 第 2 中間期…遊牧民 19 \_\_\_\_\_ が侵入し、その支配を受ける
- ⑥ 新王国（第 18～20 王朝）…前 16c～前 11c 中心地…18 \_\_\_\_\_  
・ヒッタイトと争いシリア方面まで進出  
・20 \_\_\_\_\_ 〈イクナートン〉時代（前 14c）  
…都を 21 \_\_\_\_\_ に遷す → 写実的なアマルナ美術が発達
- ⑦ 前 664 年、22 \_\_\_\_\_ 王国の支配下へ → 前 525 年、アケメネス朝に征服される

### (3) 政治・社会・文化

- ① 15 \_\_\_\_\_ と称される現人神による専制的な神権政治
- ② 宗教…太陽神 23 \_\_\_\_\_ を中心とする多神教、靈魂不滅、ミイラの制作『24 \_\_\_\_\_』  
\*新王国時代…18 \_\_\_\_\_ の守護神アモンと結びつきアモン＝ラーの信仰さかん
- ③ 文字…象形文字の 25 \_\_\_\_\_ 文字（ヒエログリフ）とパピルスに記録された民用文字（デモティック）
- ④ 実用的学問が発達…10 進法、太陽暦、測地術など

## 5. 地中海東岸の諸民族

\*前 1500 年頃からセム系カナーン人 → 「海の民」の侵入 → セム系 3 民族の活動

### (1) アラム人…前 1200 年頃から 26 \_\_\_\_\_ を中心に中継貿易で活躍

- ① アラム語…国際商業語として西アジア一帯で使用
- ② アラム文字…東方文字（ソグド文字・ウイグル文字など）の源流となる

### (2) フェニキア人…27 \_\_\_\_\_ ・28 \_\_\_\_\_ などの都市国家を建設

- ① 29 \_\_\_\_\_ 貿易を独占 → 30 \_\_\_\_\_ などの多くの植民市を建設
- ② 文化史上の功績…フェニキア文字 → 31 \_\_\_\_\_ の起源となる

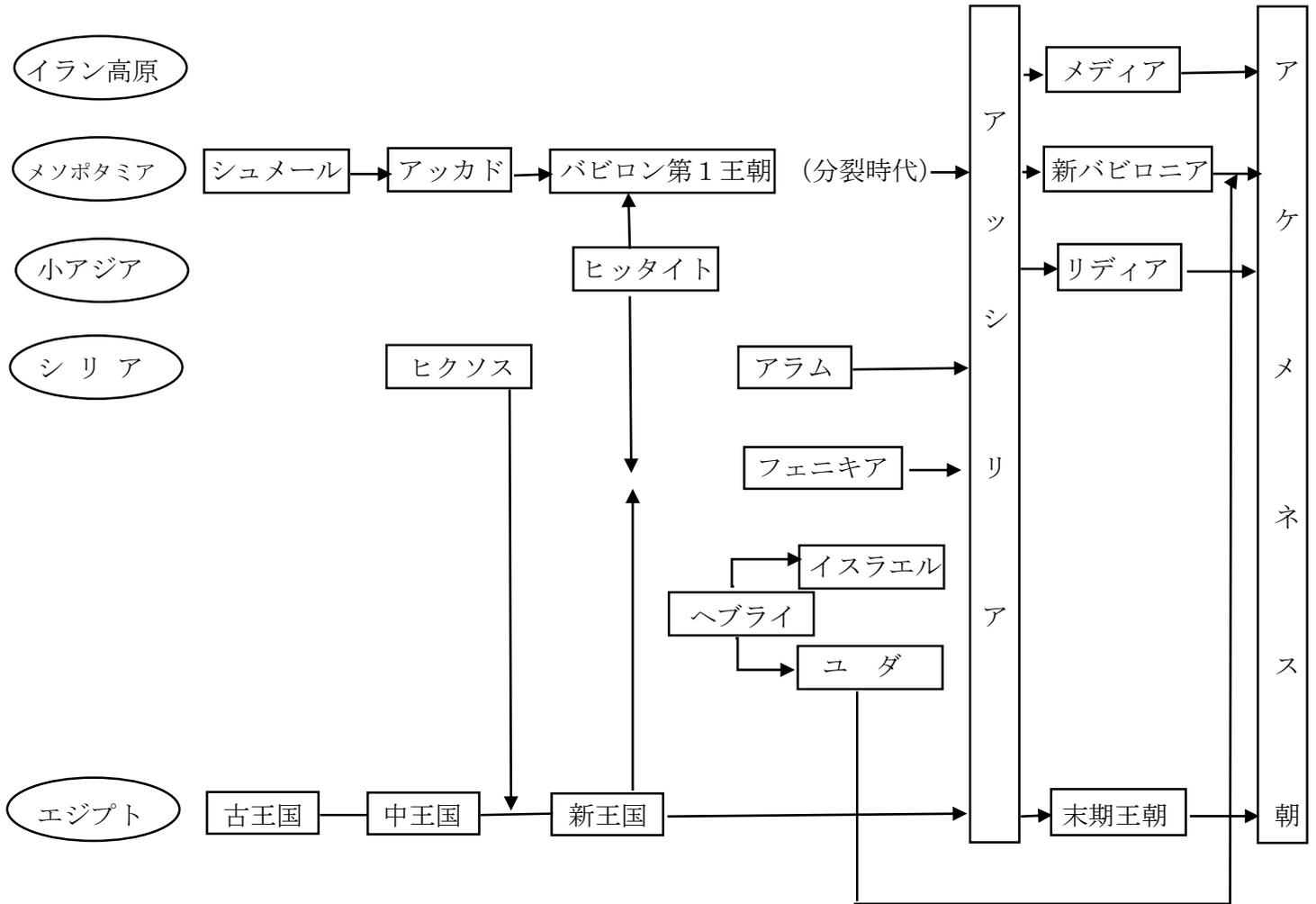
### (3) ヘブライ人

- ① 前 1500 年頃、32 \_\_\_\_\_ に定住 → 一部がエジプトに移住 → 新王国の圧政に耐えかね、モーセに率いられて「33 \_\_\_\_\_」を敢行 → 前 1000 年頃王政へ
- ② 34 \_\_\_\_\_ 王、35 \_\_\_\_\_ 王の下で繁栄 都：36 \_\_\_\_\_
- ③ 35 \_\_\_\_\_ 王の死後分裂  
【北側】37 \_\_\_\_\_ 王国…アッシリアに滅ぼされる（前 722）  
【南側】38 \_\_\_\_\_ 王国…新バビロニアに征服される＝39 \_\_\_\_\_ （前 586～前 538）
- ④ 民族的苦難 → 唯一神 40 \_\_\_\_\_ の信仰、排他的な選民思想・41 \_\_\_\_\_ （救世主）の出現待

望

⇒ 42 \_\_\_\_\_ 教の確立（『43 \_\_\_\_\_』は 42 \_\_\_\_\_ 教・キリスト教の経典）

【オリエント諸国の興亡】



1. アッシリアの統一とオリエントの征服

(1) アッシリア

- ① セム系、前 2000 年紀初めに北メソポタミアに建国 → 一時、1 \_\_\_\_\_ 王国 (前 15c) に服属
- ② 前 7c 前半、全オリエントを征服 都: 2 \_\_\_\_\_
- ③ 専制君主政治、過酷な圧政 → 服属民族の反抗 → 4 王国が分立 (前 612 年)

(2) 4 王国時代…前 7c 末～前 6c 半ば

- ① エジプト、3 \_\_\_\_\_ (貨幣の鑄造)、メディア、新バビロニア (カルディアともいう)

2. アケメネス朝の統一

(1) アケメネス朝 (前 550～前 330) 王都…スサ、ペルセポリスなど

- ① 前 6c 半ば頃、インド=ヨーロッパ系のペルシア人 (イラン人) の建国 → キュロス 2 世の下で諸国を征服 → 4 \_\_\_\_\_ (位 前 522～前 486)、大帝国を建設 (エーゲ海～インダス川)
- ② 4 \_\_\_\_\_ の統治政策…中央集権の確立を目指す
  - ・ 全土を約 20 州に分割、各州に 5 \_\_\_\_\_ (知事) を置いて統治させる
  - ・ 6 「 \_\_\_\_\_ 」・7 「 \_\_\_\_\_ 」とよばれる監察官が統治状態を巡察
  - ・ 金貨・銀貨の発行、税制整備、8 \_\_\_\_\_ 人の貿易保護 → 財政の基礎確立

- ・ 駅伝制の整備…全国の要地を結ぶ「王の道」と呼ばれる国道を建設
- ・ 異民族に寛容な政治
- ・ ギリシア遠征 (9 \_\_\_\_\_ 戦争) の失敗 → アレクサンドロス大王に征服される

## (2) ペルシア人の文化

- ① 10 \_\_\_\_\_ 教 (拝火教) を信仰 → ユダヤ教・キリスト教にも影響
  - ・ この世をアフラ=マズダ (善=光明神) とアーリマン (悪=暗黒神) の絶え間ない闘争と説き、光明神の勝利によりその恩恵で人間の幸福が得られるとする考え方
- ② 楔形文字を表音化したペルシア文字を作成

## 3. パルティアとササン朝の興亡

### (1) セレウコス朝 (前 312～前 64 年) 都：アンティオキア

- ① ギリシア世界を制覇したアレクサンドロス大王死後、アジア領土を支配
- ② しかし、相次いで独立
  - ・ ギリシア人サトラップであったディオドトスが、独立してアム川上流に 11 \_\_\_\_\_ を建国
  - ・ 遊牧民族長であったアルサケスが、イラン東北部に 12 \_\_\_\_\_ (前 248～後 224) を建国
 ⇒ アケメネス朝時代に各州に任命された 5 \_\_\_\_\_ (知事) が独立を主導 → ローマ帝国との抗争で疲弊 → ササン朝に滅亡される

### (2) ササン朝 (224～651) 都：クテシフォン

- ① 3c にパルティアを破り、イラン高原南部で建国の祖アルダシール 1 世 (在 224～241) が建国 → 第 2 代皇帝の 13 \_\_\_\_\_ (位 241～272) がローマ皇帝ウァレリアヌスを捕虜とし、東方ではクシャーナ朝を破り領土を拡大。
- ② 14 \_\_\_\_\_ (位 531～579) 時代、対外的には東ローマ帝国のユスティニアヌス大帝との戦いを優位に展開し、突厥と同盟して侵入を試みた遊牧民 15 \_\_\_\_\_ を滅ぼし、安定化していた。
- ③ 14 \_\_\_\_\_ (位 531～579) 死後 → イスラーム軍の侵入 → 642 年 16 \_\_\_\_\_ の戦いで敗れ、ササン朝は滅亡

## 2. ギリシア世界

### (1) エーゲ文明…エーゲ海中心に栄えた青銅器文明

- ① 1 文明 (前 21c 頃～前 15c 頃) …エヴァンズがクレタ島で 2 宮殿跡を発掘
- ② 3 文明 (前 17c 頃～前 13c 頃最盛) …シュリーマンの発掘、アカイア人 (古代ギリシア人) がつくり、ギリシア本土の 3 ・ティリンスなどで栄える
- ③ 4 (トロヤ) 文明 (前 27c 頃～前 13c 頃) …シュリーマンの発掘、小アジアの 4 中心に繁栄

⇒トロイア戦争でギリシア人滅ぼされる

### (2) ポリス (都市国家) の成立

- ① ギリシア人の祖のドーリア人やイオニア人などが半島に南下 (前 12c 頃)
- ② 3 文明の滅亡 → 暗黒時代 → 前 8c 頃、貴族の指導でいくつかの集落が連合し、多数のポリス (都市) 成立 = 5 (城山) を中心に集住 (シノイクスモス)
- ③ 5 (城山) …守護神を祀る 6 (広場) (交易・集会) を形成
- ④ ポリスは独立の小都市国家…絶え間ない戦争 → 一つの国家にまとまらず、ただしギリシア人としての同族意識は持つ (= 民族としての意識を失わず)
- ・自分達を 7 と呼び、異民族を 8 と呼んで区別
  - ・共通の言語や宗教をもつ
  - ・デルフォイのアポロンの神託を信じる
  - ・ 9 の民族的祭典

### (3) ポリスの発展

- ① 最初は王政 → 貴族が前 7c 世紀まで政治支配
- ② ポリス社会の人口増加、土地不足 → 海上交通発達 → 植民市の建設・商業発達 → 富裕な平民の出現 → 平民が武器を自弁 → 10 として国防の中心へ → 平民の参政権要求 → 徐々に民主化が進められる (貴族政治の動揺)
- ③ アテネの民主化
- ・ 11 の立法制定 (前 621 頃) …アテネ最古の成文法公布 (平民の保護)
  - ・ 12 の改革 (前 594) …負債の帳消し、債務奴隷の禁止、収入で市民を 4 階級に分けて異なった権利を付与 = 財産 (金権) 政治
  - ・ 13 の独裁 (前 561) …僭主政治実施 (農民の保護、文化の奨励)

僭主政治…一個人が勃興しつつある民衆 (と財力) を利用し、その指導者になって権力を獲得、貴族権力を抑えた政治体制

- ・ 14 の改革 (前 508) …氏族制廃止 (デーモス (区) の設定)、僭主政治防止のため 15 (オストラキスモス) を創始

陶片追放…年 1 回実施、僭主の恐れのある名前をオストラコン (陶片) に記入し、投票。

最多指名者で 6000 票を超えたものを 10 年間国外へ追放

(4) ペルシア戦争 (全3回 前500～前449)

- ① 小アジアのミレトスを中心とするイオニア植民市 (ギリシアの植民市) が、ペルシア支配に反乱  
→ アテネの援助
- ② 経過
  - ・ 第1回…ペルシア軍の遠征 → 暴風にあい失敗
  - ・ 第2回…16 の戦い (前490) → ペルシア軍敗北
  - ・ 第3回…ペルシア軍、テルモピレーの戦い (前480) でスパルタを破り、またアテネを焼く →  
17 率いるアテネ海軍がサラミスの海戦 (前480) で活躍 → プラタイアの戦い (前479) でギリシア側の勝利確定
- ③ 民主政治の完成…ギリシア市民が自由と独立を守るとともに、軍艦の漕ぎ手の無産市民も国防上重要な役割を果たして政治に参加するようになる

(5) 18 時代 (前443～前429) …アテネ民主政治の全盛

- ① 成年男子市民の出席する 19 が政治上の最高機関、官職は市民に開放
- ② 奴隷制度を基礎とする
  - ・ 戦争捕虜、輸入奴隷、債務奴隷などを指す。多くは家内奴隷や鉱山の採掘などに使われる。スパルタでは、参政権を持つ少数の市民が商工業に従事するペリオイコイ (劣格市民 周辺の民の意) やヘロット (奴隷身分の農民) を支配した。また、ヘロットの反乱に備えて厳しい軍国主義的生活規定が生まれる (リュクルゴスの制)
- ③ 直接民主政で、参政権は成年男子の市民のみ
- ④ アテネの繁栄…ペルシアの再来襲に備え、20 同盟結成し盟主となる

(6) ポリス社会の没落

- ① 21 戦争 (前431～前404)
  - ・ アテネ支配に対する 20 同盟の諸ポリスの不満 → スパルタが 21 同盟を率いてアテネに対抗 → スパルタの勝利 → 以後、ポリス間の抗争が続きポリス社会は没落
- ② 社会の没落
  - ・ ポリス間の絶え間ない戦争 → 農業の荒廃
  - ・ 民主政治の墜落 扇動政治家の下に衆愚政治に陥る
  - ・ 貨幣経済の浸透 → 貧富の差拡大 → 土地を失う市民が続出 → 傭兵の使用が流行 → 市民が自らポリスを守る原則が崩れる
  - ・ 覇権の推移…スパルタ → 〈ペルシア戦争〉 → アテネ → 〈21 戦争〉 → スパルタ → 〈レウクトラの戦い〉 → テーベ → 〈22 戦い〉 → マケドニア
- ③ マケドニアの興隆…22 戦い (前338) → フィリッポス2世による全ギリシア支配

(7) ギリシア文化…ギリシア神話、ホメロスの英雄叙事詩、ソクラテス・プラトン・アリストテレスなどの哲学者、彫刻の「アテナ女神像」・建築の「パルテノン神殿」など